

2023 年度:こども園自己評価の報告書 北緑丘こども園

評価項目	取り組み状況
教育・保育方針と内容	・園内研究テーマを「人との関わり合いの中で、感情豊かに共感できる遊び」とし、園の自然財源である竹林（バンブーランド）を活用しながら年齢に応じた活動を学び、共感しながら遊びを楽しめるように考えていった。取り組みを進めるために、職員一人一人が竹について調べ、情報交換しながらバンブーランドでの取り組みを考えていった。 ・職員が切った竹に園児が絵を書き、その絵に添って職員が穴を開けてランタンを作成。そのランタンを保護者会主催の夏祭りや 12 月の夕方に飾り、保護者にも園の取り組みを知ってもらう機会となった。 ・『教育保育環境ガイドライン』を活用しながら職員が各クラスの保育内容、取り組み方、環境設定などを見る公開保育を実施。その後、次に繋がる手立てなど考え合うミーティングを実施しながら保育の振り返り、実践をしていった。
健康支援	・園児一人一人の健康状態を各クラス担任と看護師が連携を取り、健康管理を行なった。 ・手洗いやトイレの使い方、プライベートゾーン等の講話を実施し、園児一人一人が自分の体や健康を意識できるようにしていった。 ・今年度は、歯磨き指導後、歯磨きを再開。再開後も園児の歯磨きの状況を看護師が丁寧に確認していった。
安全指導・危機管理	・施設の安全点検を毎月複数の職員で行い、危険箇所や危険が予測される箇所について修理、修繕を行い迅速に対応し、事故防止に努めた。 ・園外保育時に交通ルールを知らせるだけでなく、園庭に模擬道路を作って、交通安全指導も実施していった。 ・近年起こっている様々な出来事に対応できるように、また子ども達の安全を守るように、職員を 3 つのグループに分け『火災』『地震』『不審者』のマニュアルを見直し新たなマニュアルを活用しながらの避難訓練を実施。保護者の方々にも朝夕の準備等協力してもらいながら危機管理に努めている。 ・他市での事故等把握した場合は、速やかに全職員に通達し、事故予防に努めていった。
食育の推進	・各クラスで育てた野菜を収穫して食べた。自分たちが育てた野菜なので苦手な物も食べてみようとする子ども達の姿があった。 ・給食の献立で使用する野菜の皮むきをするなど、切る前の食材に触れ野菜そのものを知る機会をもった。ちぎったり皮をむいたりなど給食準備してくれたクラスのことを年長児のリーダーさんが全クラスに放送して伝えていった。
子育て支援（在園児および地域）	・送迎時には、保護者に子どもの様子を伝えることを心掛け、子育ての不安や悩みについて共に考えていけるように努めた。 ・今年度は、園行事を複数クラス同時開催とし、子ども達の成長を見ていただく機会となった。 ・個人懇談、クラス懇談で保護者の方に来園していただくことが難しい場合は ZOOM を利用し参加してもらいやすいように考えていった。 ・地域支援事業は、人数制限、事前申し込みを止めて実施。各クラスと取り組み内容を考えて園児と地域の親子が交流できる機会がもてた。 ・北緑丘こども園内で実施の子育てサロン『ふたば』も人数制限を廃止し回を重ねるごとに利用される親子が増えていった。
インクルーシブ教育保育	・保護者の思いを大切にしながら子どもの育ちに応じたねらいや手立ての方法を保護者と共に確認しながら個別支援計画を立てて取り組んでいった。 ・ミーティングで支援の在り方、課題など出し合い職員間で共有して実践していった。

職員の資質の向上	・アドバイザー研修で、わらべうたを年齢や子ども達の育ちに応じたの取り組み方を教えていただき、各クラスで実践し、実践したことを持ち寄って共有。お迎えの時間を利用して園での取り組みを知ってもらい、親子で一緒にわらべうたを楽しんでもらう機会を作った。 ・自己評価を年2回実施し、職員一人一人が振り返り、自身の課題を明らかにして取り組んでいった。 ・職員会議で定期的にクラス担任とフリー職員、技能職員、看護師も加わり、教育保育環境ガイドラインを活用して教育保育の点検、今後の取り組みを考え実践していった。
幼保こ小中の連携・接続	・就学する各小学校と連携を図り、子どもの様子を見に来てもらい丁寧に引継ぎを行っていった。 ・今年度は北緑丘小学校に5歳児の全園児が訪問し校内を案内してもらった。小学校への期待を持ち、入学を楽しみにすることができた。
評議員会	・2回目と3回目に同じ年齢の子ども達の姿を見ていただき、プロセスを大事に保育が繋がって展開されていることを知ってもらえる機会となった。 ・『教育保育環境ガイドライン』を使用して公開保育を実施し様々なご意見をいただき教育保育の見直しをすることができた。
その他	・5歳児がラジオ体操の先生として各クラスに行く、寝かしつけやおやつと一緒に食べるなどの交流を実施する中で、5歳児が年下の子との関わりが上手くなり、頼られることで自信となり、5歳児の生活も自信をもって過ごす姿が見られるようになった。 ・コドモンでクラスの様子を写真付きで配信することで、園での取り組みや子ども達の様子が伝わりやすい状況があったが、クラスごとの配信状況に差が生じていた。

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課 題	具体的な取り組み方法
教育保育内容の充実 教育保育内容の発信	・10の姿だけにこだわるのではなく、就学までの子ども達の姿から各年齢で大事にする関わり、つけるべき力など全職員で共通認識のもと実践していく。 ・コドモンを活用して定期的に各クラスの子ども達の様子を伝えるだけでなく、子ども達の育ちのプロセス、教育保育内容をドキュメンテーションを使いながら保護者に分かりやすく工夫しながら伝えていく。
地域支援の充実	・園の自然財源の竹林（バンブーランド）を地域の親子や近隣の園に開放していけるように計画したが、実際に交流していく事ができなかった。交流時期、交流内容を再検討し、地域交流を充実していきたい。

令和6年（2024年）3月31日

豊中市立北緑丘こども園

園長名 稲生 直美